

ふくしま

再生短信

10/22活動報告会2017 避難指示解除から半年 今何が課題か-村民の声

共感の歩み



【写真】1.東大農学生命科学研究科長・丹下健さん。2.飯館村復興対策課長・中川喜昭さん。3.山田牧場主人・山田猛史さん。4.佐須行政区長・佐藤公一さん。5.佐須老人クラブ副会長・菅野永徳さん。6.飯館村議・佐藤健太さん。7.明治大学農学部食料環境政策学科専任講師・本所靖博さん(右)、同研究室ゼミ生・仲安真凜さん(左)。8.飯館村農業委員会会長/本会副理事長・菅野宗夫さん。9.いいたて花壇G「いいはな」初代リーダー(公務員)・佐藤聡太さん。10.富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー(SSL)代表取締役社長・林恒雄さん。【背景】会場全景。

2017年10月22日午後3時から、東大弥生講堂において、ふくしま再生の会活動報告会2017「避難解除から半年、今何が課題か-村民の声」が、本会主催、東大農学生命科学研究科アグリコクーン農における放射線影響FG共催、渥美国際交流財団SGRA後援、により開催。会は本会理事長・田尾陽一さんの司会で進行。

1部全体討議。東大・丹下健さん「次の世代につながる取り組みを続けたい」福島県相双農林事務所農業振興普及部長・森口さん「模索しながら畜産再興」飯館村中川課長「2011以来の再生の会の空間線量測定土壌測定に

感謝、高橋日出夫さんのトルコキキョウ、山田猛史さんの畜産、なりわいも生き甲斐も大切」猛史さん「飯館で肉牛80頭目指す、次世代に繋ぐ」公一さん「再生モデル事業を進め、佐須小学校で文化の継承、再生の会と限界集落にしない交流基盤作る」永徳さん「農工商があって生活が成り立つ、仮設のログハウス移設して活力ある交流へ」佐藤健太さん「商工業に従業員集めること、村の存続こそ肝心、外国人の移住もあってよい」東大溝口勝さん「若い人のエネルギー(応援団)で老人の目が変わった」田尾「若い人集める農業高校も一案」明大本所さん「流通に

は他に負けないデザインが重要」宗夫さん「再生の会との出会い2011/6/6が原点、なりわい+環境整備+コミュニティ復興で分断克服」聡太さん「村の交流を目標見つける場に」富士通SSL林さん「村の中で考え、流通や食品など沢山の手の化学反応に期待」。

2部ポスターセッションの後、3部総括討論、田尾さん「再生事業は人と人のつながり、自然と人間の共生は東京一極集中ではなく飯館村で実現」。

懇親会は猛史さんの牛肉、宗夫さんの佐須米、ハウス野菜に舌鼓。ポスター22枚は再生の会HPへ。詳細報告書は後日発行。(撮影・文責:若林一平)

ふくしま 再生 短信



2017/11/5 野手上山遊歩道定例見回り同行記

の て が み や ま 野手上山絶景

2017年11月5日、ふくしま再生の会が実施する「うつくしま百名山」と謳われる野手上山遊歩道の定例見回りに記者は同行した。



山の師匠

小原壮二さん(右)と
畠堀操八さん、二人とも
いくつもの山を踏破して
きた名人である。

山の師匠、小原壮二さんと畠堀操八さんが倒木や雑草の繁茂、地形の変化などによる危険箇所の有無を入念に見回った。野手上山(標高628m、写真1)は野手神森と言われ行者の修行場として知られ、天狗が住む山として信仰されてきた。遊歩道入口に野手神山

神社大鳥居(写真2)、山頂に神社(写真12)がある。麓を周回する比曾川の渓谷(写真3~5)、新田川の渓谷(写真6~11)には紅葉を背景に深い谷に展開する清流、目を見張る大小の滝の数々。これらの景色の美しさはまさに息を呑むばかりである。午前10時半遊歩道出発、昼食をはさんで新田川の溪流から山頂をきわめて午後3時半に下山。ちょうど五時間の全行程を終えたところで、昨晚ドイツにおける人間と自然の共生・再生エネルギー展開の講義をして頂いたベルリン自由大学教授・福澤啓臣さん(右写真中央)の「出迎え」を受けた。(文責&撮影・若林一平)



ふくしま 再生 短信

松塚土壤博物館建屋建設奮戦記

じ ぶ ぶ き 地 吹 雪 に 咲 く



【背景写真】完成直前の博物館建屋。右手後方には高橋日出夫さんのハウス群の一部が見える。【左】1.「2/24飯館村in杉並」にメッセージを送る日出夫さん。2.日出夫ハウスのアルストロメリア。【右】3.~6.博物館建設現場。

2018年2月17~18日、お
りからの地吹雪の最中、
飯館村松塚地区田圃に於

いて松塚土壤博物館建屋建設工事が行われ
た。土壤博物館は東大国際情報農学研究室教
授・溝口勝さんが提唱し、飯館村農業再生事
業の一環としてふくしま再生の会と協働して
推進してきた。これまでの仮設テントから展
示観察研究スペースを備えた本格的博物館に
向けて今回の工事が行われた。現場の直ぐ西

方には高橋日出夫さんのハウス群があり
2/24報告会に向けてアルストロメリアが工
事と同時進行で熱く咲き競っていた。

工事を主導したのは既に幾多の実績を誇
るハウス建設チーム棟梁・大永貴規さん。
地吹雪の強風をものともせず午後5時全工
事終了。溝口さんから現場モニター情報「松
塚現地の体感温度はマイナス27℃」が現場
一同(写真7)に伝わりこの日の「偉業」を
改めて体感した。(文責&撮影・若林一平)